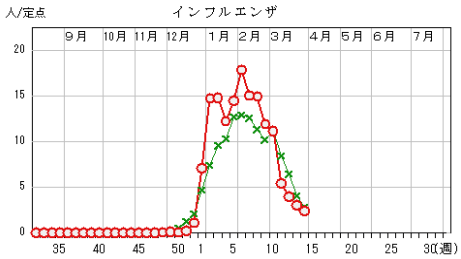
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第14週　　2023年4月3日（月）～ 2023年4月9日（日）　2023年4月13日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

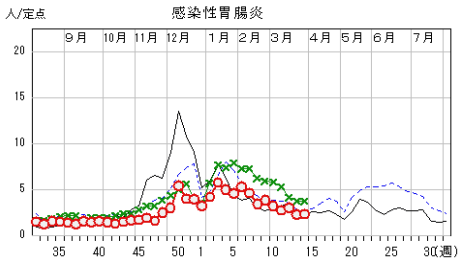
（１） インフルエンザ

第14週の報告数は169人で、前週より42人少なく、 定点当たりの報告数は2.41であった。
年齢別では、10～14歳（18人）、１歳（16人）、２歳（15人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（5.71）、県央保健所（2.45）であった。



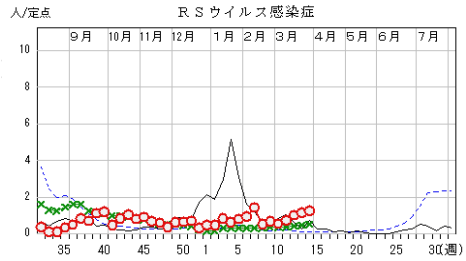
（２） 感染性胃腸炎

第14週の報告数は104人で、前週より2人多く、 定点当たりの報告数は2.36であった。
年齢別では、２歳（22人）、１歳（17人）、６歳（12人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（5.33）、西彼保健所（4.00）、県央保健所（3.57）であった。



（３） ＲＳウイルス感染症

第14週の報告数は55人で、前週より5人多く、 定点当たりの報告数は1.25であった。
年齢別では、１歳（26人）、1歳未満（17人）、２歳（9人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（3.00）、県央保健所（1.86）、西彼保健所（1.50）であった。



☆トピックス・季節情報

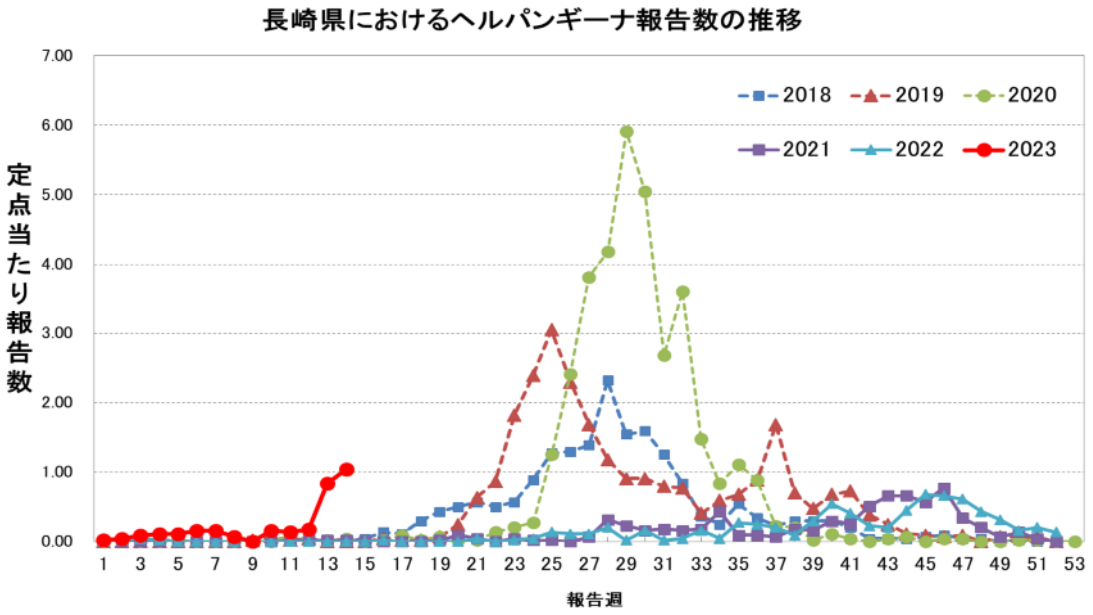
【インフルエンザ】
第14週の報告数は169人で、前週より42人少なく、 定点当たりの報告数は2.41でした。地区別にみると、長崎地区（5.71）、県央地区（2.45）は他の地区より多くなっています。患者報告数は減少傾向にありますが、今後も予防に努めましょう。
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】
第14週の報告数は104人で、前週より2人多く、 定点当たりの報告数は2.36でした。地区別にみると県北地区（5.33）、西彼地区（4.00）、県央地区（3.57）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【RSウイルス感染症】
第14週の報告数は55人で、前週より5人多く、 定点当たりの報告数は1.25でした。地区別にみると、長崎地区（3.00）、県央地区（1.86）、西彼地区（1.50）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。
RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナの第14週の報告数は、前週より9人増加して46人となり、定点当たりの報告数は1.05でした。地区別にみると、県北地区（6.67）、佐世保地区（3.50）が多く、県北地区は、警報レベル開始基準値「6.0」を超えています。
ヘルパンギーナは、手足口病とともに夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎で、例年6から7月に患者のピークが認められます。発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、基本的に予後良好ですが、場合によっては髄膜炎や脳炎などの重篤な合併症を併発することもありますので、感染防止に努めましょう。
主な原因であるエンテロウイルスは、せきやくしゃみを介した飛沫感染と、患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）により広がっていきます。特に便からは1～4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ますので、オムツ交換や排便後の手洗いの徹底が必要です。主として乳幼児や小児に流行するため、保護者の方はお子さんの手洗いと体調管理に気をつけてあげましょう。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。



☆トピックス：梅毒の報告数が急増しています

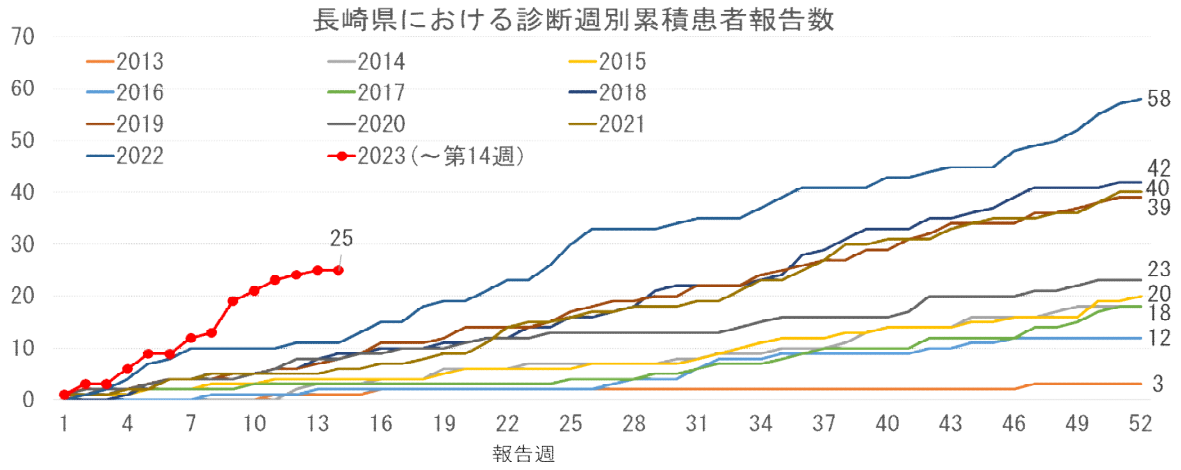
梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

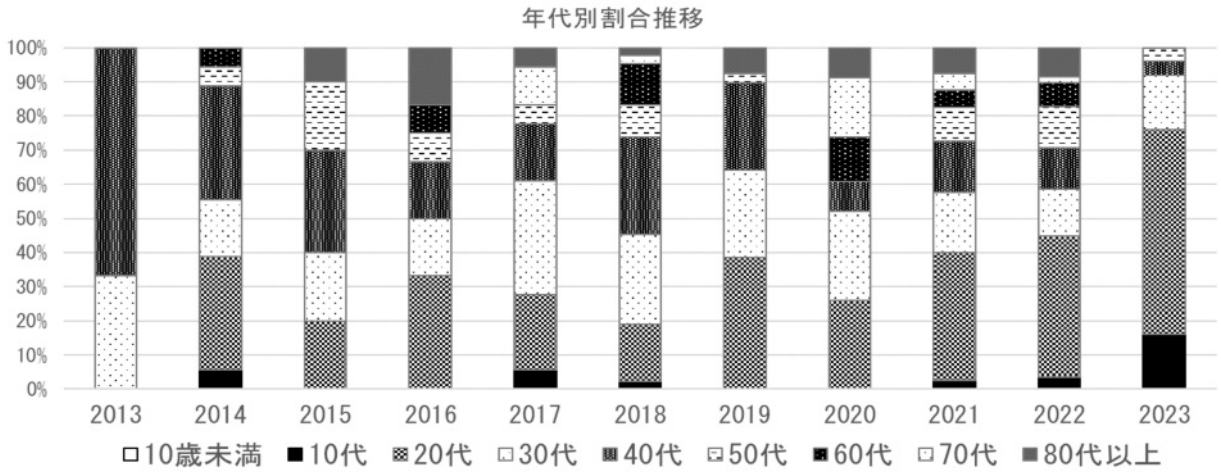
感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。症状が出ない無症候性梅毒の状態で、永年にわたり気がつかないまま過ごすケースもあります。先天梅毒では、乳幼児期に皮膚病変や全身性リンパ節腫脹等を呈する症例や学童期以後に実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯などを呈する症例があります。

長崎県では2023年第14週までに25名の報告があり、過去10年の中で最速で報告数が増加しています。女性がやや多く、年代別にみると、20代の患者が全体の6割を占めています。また、妊娠中の2名の報告もあがっています。

梅毒は早期に診断がされれば治療は比較的容易とされていますが、診断の遅れから神経梅毒などを発症し後遺症が残ることも稀ではありません。早期に治療を始めることが重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。

感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。





◆全数届出の感染症

２類感染症：　報告なし

３類感染症：　報告なし

４類感染症：　報告なし

５類感染症（全数把握対象）：　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　患者　女性（70代・1名）

※新型コロナウイルス感染症の発生件数については、長崎県ホームページに掲載しています。

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第9～14週、2/27～4/9）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	9週	10週	11週	12週	13週	14週
	2/27～	3/6～	3/13～	3/20～	3/27～	4/3～
インフルエンザ	11.94	11.17	5.39	3.93	3.01	2.41
ＲＳウイルス感染症	0.67	0.55	0.73	1.02	1.14	1.25
咽頭結膜熱	0.33	0.18	0.30	0.34	0.34	0.11
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.12	1.80	1.84	1.84	1.57	1.05
感染性胃腸炎	3.84	3.20	2.77	3.00	2.32	2.36
水痘	0.09		0.09	0.07	0.11	0.11
手足口病		0.16	0.11		0.20	0.36
伝染性紅斑（リンゴ病）				0.02		
突発性発しん	0.23	0.20	0.32	0.18	0.20	0.34
ヘルパンギーナ		0.16	0.14	0.18	0.84	1.05
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.12		0.02	0.09		
急性出血性結膜炎	0.38					0.13
流行性角結膜炎	0.13	0.38			0.38	0.38
細菌性髄膜炎	0.08					
無菌性髄膜炎					0.08	0.08
マイコプラズマ肺炎				0.17		
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　（第14週、4/3～4/9）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.41	1.45	5.71		0.50	2.45	2.00	0.75			2.33
ＲＳウイルス感染症	1.25	0.50	3.00		1.50	1.86	0.40	0.33			
咽頭結膜熱	0.11				0.25	0.29	0.40				
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.05		0.20		1.25	0.57	6.80	0.33			
感染性胃腸炎	2.36	3.50	1.30		4.00	3.57	1.80	5.33		2.00	
水痘	0.11	0.67	0.10								
手足口病	0.36		1.30		0.50			0.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.34	0.17	0.30		0.25	0.57		2.00			
ヘルパンギーナ	1.05	3.50	0.10				0.80	6.67			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.38		0.33				2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎											
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											